

第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果
 国立大学法人お茶の水女子大学

1 全体評価

お茶の水女子大学は、「学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げ、全ての女性はその年齢・国籍等にかかわらず、個人個人の尊厳と権利を保障されて、自身の学びを深化させ、自由に自己の資質能力を開発させる支援をすることを目指している。第3期中期目標期間においては、国境を越えた研究と教育文化の創造と、夢の実現を支援するための学びの場を提供し、時代と社会の要請に応じてグローバルに活躍する女性リーダーを育成するとともに、女性の生涯にわたる生き方のモデルを提供すること、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて豊かで自由かつ公正な社会の実現に寄与すること等を基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善
教育研究						
教育		○				
研究			○			
社会連携			○			
その他		○				
業務運営		○				
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務		○				

（教育研究等の質の向上）

高度な研究力・実践力を備え、リーダーシップや主体性を発揮できる学生を育成することを目的として設置したグローバル理工学副専攻において、異なる分野を専攻する複数の学生が超領域的な課題に取り組む自主協働研究Project Based Team Studyを取り入れた教育を実施している。また、海外大学との交流協定の締結や、海外短期・長期留学派遣プログラムの整備、学生の海外派遣の促進及び外国語力向上に向けた取組を行った結果、グローバル人材比率（学部卒業時に留学経験を持つ者及び外国語力スタンダードを達成する者の割合）は、44.5%となっている。

（業務運営・財務内容等）

メンター制度の充実やロールモデルの提示、配偶者同行休業制度等の女性が働きやすい職場環境を構築することで、中期計画に掲げた役職者に占める女性の割合を30%以上とする目標を4年連続で高い水準で達成するとともに、全国立大学における女性教員比率1位を維持している。また、国際交流・地域貢献・世代間交流の3つの目的を持つ集いの場として、これからの大学の新たなシンボルとなる「国際交流留学生プラザ」を正門横に開設し、海外からの留学生、研究者と学生、附属学校の児童・生徒や地域住民が共に学ぶ拠点として活用する体制を構築している。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>	特筆	計画以上の進捗	順調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(I) 教育に関する目標		○				
①教育内容及び教育の成果		○				
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標			○			
①研究水準及び研究の成果			○			
②研究実施体制等の整備			○			
(III) 社会連携及び地域に関する目標			○			
(IV) その他の目標		○				
①グローバル化		○				

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」、3項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「理工系グローバル人材の育成」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 理工系グローバル人材の育成

高度な研究力・実践力を備え、リーダーシップや主体性を発揮できる学生を育成するため、文部科学省の博士課程教育リーディングプログラムの下に設置したグローバル理工学副専攻において、異なる分野を専攻する複数の学生が超領域的な課題に取り組む自主協働研究Project Based Team Studyを取り入れた教育を実施している。また、諸外国から採用したスタディコモンズ教員を含む学内外の教員・企業等関係者がメンターとなってチームの研究をサポートする体制を構築している。なお、このプログラムの事後評価において、大学院教育のグローバル化及び副専攻科目の大学院共通科目化を図っている点等が評価され、S評価を受けている。(中期計画1-1-1-2)

(特色ある点)

○ 生活工学分野の人材育成

新たな工学分野である「生活工学」を担う理工系女性人材を育成・輩出し、優れた研究成果を生み出すため、平成28年度に奈良女子大学と連携して大学院生活工学共同専攻を設置し、ライフ・イノベーション・ワークショップ・プログラムやProject Based Learning (PBL) 科目等の教育プログラムにより、女性の強みを生かした「生活者の視点」からの工学を推進している。(中期計画1-1-1-4)

1-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ ジェンダー教育の拡充

男女共同参画を推進するグローバル女性リーダーを育成するため、全学部の学生が自然科学・技術を含む様々な角度からジェンダーに関する知識を学際的・系統的に習得でき、一定の科目数を履修した学生には履修証明を授与する「全学ジェンダー学際カリキュラム」を導入している。(中期計画1-1-2-2)

○ 女性起業家の育成

グローバルに活躍する女性リーダーを育成する一環として、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）の下で、東京大学（主幹機関）、筑波大学及び静岡大学とともに女性起業家の育成を推進している。授業科目として「アントレプレナーへの道（入門編）」や、「アントレプレナーへの道（ベンチャー編）」等を開講するとともに、「カルティエ ウーマンズ イニシアチブ アワード受賞者招待講演会」等、国内外の女性起業家を講師とするセミナーや講演会を開催している。なお、本事業は中間評価において、4大学コンソーシアムとしてS評価を得ている。（中期計画1-1-2-2）

1-2教育の実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由） 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1（小項目）

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症の影響下での教育に関する取組として、遠隔講義システムと併用して、10年以上にわたり学習管理システム（LMS）として利用してきたMoodleを教育全般に対して活用している。令和2年度に実施した学生アンケートの結果において、オンライン授業についての満足度は学部生で70%程度となっており、安定してオンライン教育に対応できている。

1-2-2（小項目）

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「学生の海外留学促進に向けた教育体制の整備」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 学生の海外留学促進に向けた教育体制の整備

実践的な英語運用力を強化するため、Advanced Communication Training (ACT) プログラムについて、3段階のレベルに応じたクラス分けを行い、最上位の学生には2年次生対象の科目の履修を認めるなどのカリキュラム改革を行っている。また、語学研修における実践的教育や、外国語学修の拠点として設置したLanguage Study Commons (LSC) における授業、研修、留学準備、オンライン学習等に対する支援を行うことによって、サマープログラムの参加学生数は第2期中期目標期間の平均値99.6名に対して、平成28年度から令和元年度の4年間の平均値が180.5名と約1.8倍に増加している。なお、「THE世界大学ランキング日本版2018」では、「日本人学生の留学比率」において国立大学で2位を獲得している。(中期計画1-2-2-1、1-2-2-2)

(特色ある点)

○ 外国語の学修支援

平成29年度に、学内に分散していた4つの外国語学修施設をLanguage Study Commons (LSC) を中心として1つの建物に集約させ、外国語学修の拠点として、授業だけでなく、研修やオンライン学習及び外国人留学生との交流等、多様なグローバル人材育成に関する活動に活用している。また、LSCにおいて学生が主体となり、授業期間の昼休みを利用して外国語交流会(語学カフェ)や外国語講座を定期的開催しており、平成28年度から令和元年度の4年間で延べ3,000名以上の学生が参加している。なお、LSCの年間利用者数は、平成28年度の3,634名から令和元年度には12,103名へと約4倍に増加している。(中期計画1-2-2-2)

1-2-3 (小項目)

【判定】中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 大学間連携による内部質保証システムの構築

大学の教学に関わるIRの比較研究に焦点をあて、大学間の協働の場としてその共有知作りを進める連携組織である教学比較IRコモンズの下で、お茶の水女子大学が設計した「ALCS (Academic Learning and Cultivation Survey) 学修行動比較調査」を実施している。各大学の調査結果からベンチマークを導出し、統計的に比較分析を行って学生の学修行動特性を明らかにすることで、参加大学が実施する教育の達成状況や課題を客観的に見出すことができる体制を構築し、大学間連携的な内部質保証システムの形成を推進している。(中期計画1-2-3-1)

30 お茶の水女子大学

1-3学生への支援に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

1-3-1（小項目）

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 学部・大学院一貫の学修ポートフォリオの整備

授業に関連した学修と、個々の学生の関心にもとづく広範な学習・研究の双方について自分のポリシーを明確にして、達成した成果等を記録して学びの振り返りの基盤にするとともに、それらを学生の判断によりインターネット上で公開して修学の実績を示し、対外的な説明の機会に役立てていく仕組みとして、ラーニング&スタディ・ポートフォリオ（super alagin）を開発・運用している。super alaginを学部・大学院で一貫したものとするため、平成30年度には大学院博士課程においても成績評価を原則として素点で行うこととし、学修成果指標としてGPAを用いる等の環境整備を進め、学士課程と大学院博士課程の全ての学生が利用できる環境を整えている。（中期計画1-3-1-2）

○ 附属図書館のキャリア形成支援

学部生を対象とした、図書館での業務体験を通じたキャリア形成支援プログラムであるLiSA（Library Student Assistant）による選書ツアー、ならびに図書館におけるアカデミック・スキルズにかかる学習支援を大学院生が業務として行うLALA（Library Academic Learning Adviser）等の学生スタッフの活動を継続して支援し、学生との協働によって図書館サービスを行っている。（中期計画1-3-1-1）

1-3-2（小項目）

【判定】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ トランスジェンダー学生の受入体制の整備

「学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」という大学のミッションに基づき、戸籍上男性であっても性自認が女性であるトランスジェンダー学生を受け入れる方針を平成30年度に日本の女子大学で初めて決定し、受入準備プロジェクトチームの設置、受入れに関する規則の制定、出願資格確認マニュアルの作成や対応ガイドラインの作成・公表等を行い、令和2年度の受入れに向けて体制を整えている。（中期計画1-3-2-1）

1-4入学者選抜に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由） 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○ 多様な入試制度の導入

学力の三要素を重視し、学力を多面的・総合的に評価する新型AO入試の「新フンボルト入試」において、第一次選考の一環としてプレゼミナール（大学の専門授業の体験受講及び情報検索演習）を実施している。また、第二次選考として、文系では文献や資料を活用してレポートを作成し、グループ討論や面接を通じて論理力や課題探求力等を評価する「図書館入試」を、理系では専門性に即した実験や実験演示、データ分析や自主研究プレゼンテーション等の課題から探究する力をはかる「実験室入試」を実施している。（中期計画1-4-1-1）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 国際的教育研究拠点の形成促進

グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点の形成に向けて、グローバル女性リーダー育成研究機構を中心として、国際シンポジウムの開催や研究者の招へい及び短期派遣プログラムの実施等を通じ、海外連携機関との活発な学生交流、研究交流を行っている。また、ノルウェー科学技術大学とのジェンダー平等、リーダーシップ、ワーク・ライフ・バランス及び生殖医療についての共同研究や、梨花女子大学(韓国)とのアジアにおける女性リーダーのモデル構築とインデックス開発(Asian Woman Leadership Model and Index)についての共同研究等、リーダーシップ教育やジェンダー研究に係る海外の大学・研究機関との連携を進めている。(中期計画2-1-1-1)

○ ヒューマンライフィノベーション開発研究機構による研究推進

国際的に評価できる研究成果発信拠点を形成するため、平成28年度に設置した「ヒューマンライフィノベーション開発研究機構」において企業・研究機関等との連携を進め、各機関との連携数は、平成28年度の11件から令和元年度の28件へと増加している。また、国内外での学会発表・共同研究等についても、論文発表数が平成28年度の57件から令和元年度の103件へと増加し、国際学会等での発表・講演等を合わせた件数も平成28年度の45件から令和元年度の68件へと増加しているほか、ニュースリリース件数についても平成28年度の2件から令和元年度の83件と増加している。（中期計画2-1-1-2）

2-2研究実施体制等の整備に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由） 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2-2-1（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 学際的国際共同研究の推進

グローバル女性リーダーの育成及び研究の活性化のため、各種シンポジウムやセミナー、ワークショップを開催し、国内外から女性研究者を招へいしている。平成28年度から令和元年度の4年間で、シンポジウム等は延べ100件以上開催（参加者は約7,700名）し、招へいした女性研究者は延べ176名（海外：108名、国内：68名）となっている。また、リーダーシップ、ジェンダー等の重点研究領域に係る学際的国際共同研究を推進し、新規・継続を合わせて毎年度5件以上の共同研究を実施している。（中期計画2-2-1-1）

2-2-2（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

2-2-3（小項目）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)4項目のうち、4項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 全学共通教育としての社会連携講座

女性リーダーの育成支援を目的として、包括的協定を締結した民間企業と連携し、高校生・大学生・大学院生を対象として次世代の女性リーダーの育成を支援する「未来起点プロジェクト」を立ち上げ、このプロジェクトの主軸として、附属学校生も受講可能な社会連携講座を全学共通科目「未来起点ゼミ」として開講している。(中期計画3-1-1-1)

○ 地域との連携による女性リーダーの育成支援

イノベーションを創出できる女性リーダー人材の育成を行うとともに、地域の要望に応じた支援や人材育成を行うため、女性の採用や登用に関心を有する民間企業19社と連携した「女性活躍促進連携講座」を大学院の授業科目として開設し、参加企業と学生のディスカッションを通じて、参加企業が自身の問題点の抽出とその解決策の検討を行うことのできる場を提供している。また、福井県との女性リーダー育成支援の包括的協定に基づき実施している社会人女性リーダー育成プログラム「未来きらりプログラム」において「製造業リーダーコース」等を新設し、令和元年度末までに修了生のうち41名が管理職・リーダーとなっている。(中期計画3-1-1-1)

3-1-2 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○ 幼児教育・保育の社会人講座の開設

幼稚園教諭、保育士等の現職者を対象とした再学習の機会を提供するとともに、社会人の職業に必要な能力向上の機会をさらに拡大するため、文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）の一環として、お茶の水女子大学子供園及び文京区と連携・協働して大学院レベルの履修証明プログラム「保育・子育て支援ラーニングプログラム」を令和元年度から実施している。（中期計画3-1-2-2）

○ 社会人女性のキャリアアップ支援

企業で管理職を目指す社会人女性を支援するため、女性のエンパワーメントとリーダーシップ、財務会計・経営戦略／マーケティング等、実践に即したプログラムを提供する生涯学習講座「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾」において、令和元年度からカリキュラムの改善や受講者の更なる拡大を目的として新たにトライアル講座を開講し、第3期中期目標期間中の受講生は2倍以上に増加している。また、アンケート調査の結果から、講座の受講後、上位職へのチャレンジに対するモチベーションが向上しており、実際に10名（有効回答数の約22%）が昇進・昇格し、うち1名が非正規雇用から正規雇用となっている。（中期計画3-1-2-1）

3-1-3（小項目）

【評価結果】中期目標の達成に向けて進捗している

（判断理由） 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

＜特記すべき点＞

（特色ある点）

○ 高大接続事業を通じた理系人材の育成

理科人材及び理系女性人材育成を推進するため、「サイエンス&エデュケーションセンター」の規模・機能を拡充し、教員向け理科教員研修については、目標値500名に対して令和元年度の受講者が986名となるなど、中期計画に掲げた目標を毎年度上回って実施している。また、理系を志す女子生徒の理系分野に対する理解を深めるため、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校6校と高大接続事業に関する協定を締結し、お茶の水女子大学の教員が課題研究の指導を行い、受講生が入学した場合は学部の単位として認定される「課題研究支援プログラム」を平成29年度から協定校を対象として実施している。（中期計画3-1-3-1）

30 お茶の水女子大学

○ 災害時に対応した理科実験教材の開発

災害時にも途切れない教育システムの構築を進め、普通教室でも実施できる省スペースで安価な理科実験教材の開発とパッケージ化に取り組んでいる。開発した教材を全国の被災地に展開するシステムとして、ウェブサイト上の「お茶の水女子大学理科教材データベース」に令和元年度末までに延べ39件のコンテンツを登録・公開しているほか、開発したコンテンツを使用した教員研修や、現地及びICTによる遠隔地コミュニケーションによる出前授業を行っている。平成28年度の熊本地震等の災害が発生した際には、速やかに現地の教育委員会を訪問して被害調査を行い、教材提供・教員研修・出前授業を実施している。(中期計画3-1-3-2)

3-1-4 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 認定子供園における研究の推進

保育所型認定子供園「文京区立お茶の水女子大学子供園」を平成28年4月に開設し、質の高い保育サービス・幼児教育の提供だけでなく、「お茶大子供園フォーラム」を始めとした各シンポジウムでの教育カリキュラムモデルの提案や、地域に向けた子育て支援プログラムの実施、主に乳幼児教育における環境の在り方やその評価方法についての書籍の出版等により、子供園での教育・実践研究を社会に発信している。また、学内の乳幼児教育現場(附属幼稚園、いずみナーサリー(保育所)、文京区立お茶の水女子大学子供園)と共同で「お茶の水女子大学3園合同研究会」を組織し、3園合同研究会の教諭・保育士等が「連携研究員」として人間発達教育科学研究所に所属することで、乳幼児教育現場をフィールドとして、大学と附属学校園が連携して研究を推進する体制の強化に取り組んでいる。(中期計画3-1-4-1)

(IV) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「計画以上の進捗状況にある」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

4-1-1 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「グローバル人材比率の向上」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ グローバル人材比率の向上

海外大学との交流協定の締結や、海外短期・長期留学派遣プログラムの整備、学生の海外派遣の促進及び外国語力向上に向けた取組を行った結果、グローバル人材比率(学部卒業時に留学経験を持つ者及び外国語力スタンダード(英語:CEFR・B2レベル、中国語:CEFR・C1レベル、フランス語:CEFR・B1レベル、ドイツ語:CEFR・B1レベル)を達成する者の割合)は、令和元年度に44.5%となっている。なお、日本の大学における教育力に焦点を当てた「THE世界大学ランキング日本版2018」において、日本人学生の留学比率の指標で国立大学2位(全体では18位)となっている。(中期計画4-1-1-1)

30 お茶の水女子大学

(特色ある点)

○ 国内外の大学間連携の推進

上智大学、静岡県立大学と共に申請・採択された、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」を活用し、国内循環型のマルチキャンパスでの留学生受入プログラムの実施や、Collaborative Online International Learning (COIL) の導入を促進し、海外の連携大学との遠隔教育と交流事業を軸とした新たな学習形態の実践に取り組んでいる。(中期計画4-1-1-1)

4-1-2 (小項目)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて進捗している

(判断理由) 中期計画の判定が全て「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 開発途上国における子供・女性教育支援

開発途上国の子供・女性支援を推進するため、女子教育支援としてカブール大学（アフガニスタン）を中心に、大学院博士課程の留学生6名等を受け入れ、就学前教育支援としてアフリカ全域及び中東の国々の人材育成を目的とした乳幼児ケアと就学前教育研修等を実施している。また、グローバル女性リーダー育成への取組を推進するため、持続可能な開発目標（SDGs）のテーマである貧困、教育、ジェンダー、平和、国際協力等について現場の視点からの理解を深めることや、国際協力に関する実践的な知識とスキルの向上・習得を目的として、教育や研究支援、啓発活動を実施している。(中期計画4-1-2-1)

(2) 附属学校に関する目標

附属学校園における教育研究の成果を広く発信する仕組みとして、これまでの取組を「お茶の水女子大学附属学校園教材・論文データベース」として公開し、積極的な研究成果の発信を行っている。

また、大学内部局・センターや奈良女子大学と連携し、女子の理系進学増加及び理系女子人材育成の促進に向けた取組を実施している。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 各学齢段階や幼小中高大の接続を意識した研究活動の促進及び成果の発信

各附属学校園において推進されてきた学齢段階に応じた研究開発や、平成28年度に設置された「人間発達教育科学研究所」が中心となり実施してきた、幼小中高大の接続を意識した研究開発を社会に広く発信するシステムとして、「お茶の水女子大学附属学校園教材・論文データベース」を平成30年度に新たに開発し、研究成果の発信の取組を推進している。

○ 大学・学部の教育に関する研究への組織的な協力体制

平成27年度に奈良女子大学と共同で設置した、理系女性人材の育成を進める「理系女性教育開発共同機構」と連携を進め、大学の教育に関する研究に附属学校が組織的に協力する体制を確立し、女子中高生向けの理系教育プログラムや副教材の作成、保護者向けの啓発講座の実施等、同機構と附属学校が連携して実施する研究計画の立案・実践が行われている。

特に、初等中等教育においてより多くの女子生徒が理数分野への興味関心を持つことができるよう、学習指導要領に沿いながら、多数の理数系教育プログラム・副教材の開発を行い、附属学校の各授業で実践しているほか、機構ウェブサイトでの紹介や、利用を希望する教育機関に対して実習キットの無料貸し出しを行うなど、発達段階に応じた理系人材育成リソースの開発成果を社会に広く発信している。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	特 筆	計画以上の進捗	順 調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○				
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営		○				

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(理由) 中期計画の記載11事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の優れた点があること等を総合的に勘案したことによる。

(法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる事項)

中期計画【K40】及び【K41】については、法人が掲げる数値達成に向けた取組を令和元年度まで着実に実施していると認められるものの、令和元年度の時点では、数値目標を上回って実施しているとまでは認められないことから、「中期計画を十分に実施している」と判断した。
--

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○ 学長補佐体制の強化及び活用

学長のリーダーシップを発揮した戦略的取組を推進するため、複数の大学でマネジメントを経験した人材等、各分野に精通した人材を任用して学長を補佐する体制を強化し、学長の適切かつ迅速な意思決定を可能とする体制を構築している。この結果、英米の有力9大学学長によって運営されている「Human Value」に関する啓発活動であるタナーレクチャー（「人間の価値」連続講演会）の日本初開催や再入学した学生の修業年限及び在学年限を明確化した学則の改正等の成果に結びついている。

○ 女性が働きやすい職場環境の整備に向けた取組

メンター制度の充実やロールモデルの掲示、配偶者同行休業制度等の女性が働きやすい職場環境を構築することで、中期計画に掲げた役職者に占める女性の割合を30%以上とする目標を4年連続で高い水準で達成（4年間平均：約40.5%）するとともに、全国立大学における女性教員比率1位を維持している。これらの取組に対して、平成30年度に、東京都から「東京都女性活躍推進大賞」が授与され、令和元年度には東京都との共催で、東京都知事等を招いた懇話会を開催し、女性活躍の推進に向けて広く発信と提言を行っている。

○ ヒューマンライフィノベーション開発研究機構の新設

大学の強みや特色ある分野である生命科学、生活科学、人間発達科学等の研究を結集・融合した戦略的研究組織として、「ヒューマンライフィノベーション開発研究機構」を新設し、世界水準の研究拠点構築に向けて、国内外の研究機関や企業と連携して教育研究を推進している。同機構にヒューマンライフィノベーション研究所及び人間発達教育科学研究所を設置し、それぞれ重点研究分野に係る研究を進めるとともに、その成果を融合させた機構全体の成果として「健康支援・教育プログラム」の開発を行い、心身の健康や生活環境の向上に資する取組を推進している。

○ 業務のIT化に関する取組

職員の業務負担軽減を目的として全学的に学内事務へRPAの導入し、申請書の電子化等、業務の効率化を図っている。RPAは人事労務課、財務課、図書・情報課等の11業務について実施し、年間約120時間を効率化でき、約25.8万円の経費を削減している。また、RPA推進の取組として「初心者向け研修会」及び「事例報告・情報交換会」を開催して職員に対する周知及び実業務での活用を推進している。

○ 大学院生活工学共同専攻の設置

「工学」の学位が取得できる大学院課程として、奈良女子大学と連携し、大学院生活工学共同専攻を設置している。本課程により、令和元年度までに「生活工学」の学位を21名が、「工学」の学位を16名が取得し、工学系女性人材の育成を推進している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載7事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 特定基金「未来開拓基金」の設立等による自己収入比率の増加

特定基金「未来開拓基金」の設立やネーミングライツ制度の導入、社会連携講座の新設等の財務基盤の強化に向けた多様な取組の結果、平成28年度から令和元年度の自己収入比率は第2期中期目標期間の平均32.1%（24億1,485万円）から38.8%（31億422万円）と6.7ポイント増加しており、外部資金比率（寄附金）も第2期中期目標期間の平均3.0%（2億2,313万円）から9.8%（7億9,303万円）と6.8ポイント増加している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 中期計画の記載4事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 教員の多様な業績を多面的に評価する教員評価システムの確立

5つの評価領域（「教育」、「研究」、「社会貢献・産学（官）連携」、「国際活動」、「大学運営」）において、細分化された計40の項目と、評価点を算出するための配点を設定することで、教員の多岐にわたる業績を定量的かつ適切に評価する仕組みを整備している。また、「総合評価室」によるピアレビューを試行的に実施し、有効性等を検証した結果、より精度の高い評価が可能となるよう、教員の専門分野ごとに組織された各「系」の系長及び基幹研究院長による、各系所属教員の「個人目標及び自己評価」のピアレビューを実施している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(理由) 中期計画の記載11事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、一定以上の優れた点があること等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 留学生、研究者と学生、附属学校の児童・生徒や地域住民が共に学ぶ拠点の構築

国際交流・地域貢献・世代間交流の3つの目的を持つ集いの場として、これからの大学の新たなシンボルとなる「国際交流留学生プラザ」(事業総額約14億8,558万円)を正門横に開設し、海外からの留学生、研究者と学生、附属学校の児童・生徒や地域住民が共に学ぶ拠点として活用する体制を構築している。自然豊かなキャンパスとの調和を図った設計にするとともに、建設資金については、特定基金「未来開拓基金」を立ち上げ、同窓生、教職員等から寄せられた多額の寄附金を活用している。

○ ダイバーシティに配慮したキャンパス環境と新学生宿舎の整備

築50年を超える国際学生宿舎に代わるものとして、大塚キャンパス敷地内に新学生宿舎をBTO方式により建設する整備に着手している。また、日本の女子大学として初めてトランスジェンダー学生の受入れを決定していることを踏まえ、トランスジェンダー学生に対応する施設整備として、多目的トイレ、大学体育館改修工事を実施するなど、ダイバーシティに配慮したキャンパス環境の整備を推進している。